

武蔵野線を支える支線

3年 さだばさし

① 序論

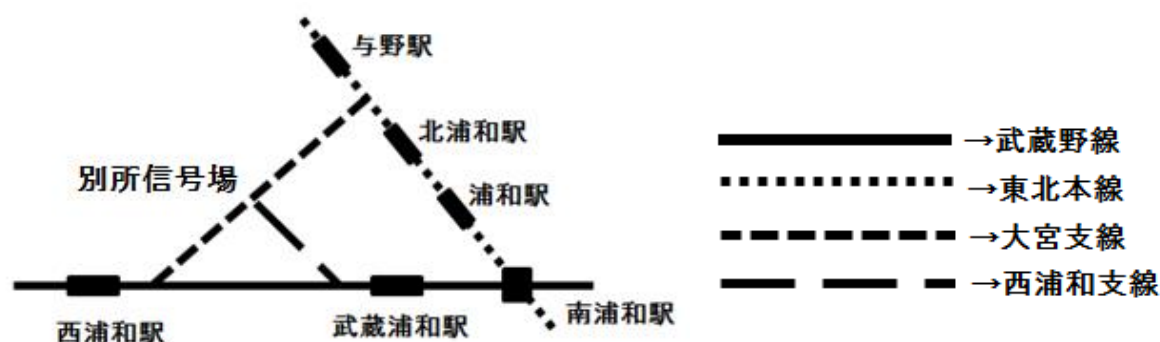
東京近郊をぐるりと囲んでいる武蔵野線。この武蔵野線は旅客営業区間では府中本町～西船橋間の他にいくつかの支線がある。今回の部誌ではこの支線の一部を取り上げる。

まず、武蔵野線には武蔵野線西船橋方面と中央線八王子方面を結ぶ「国立支線」、武蔵野線府中本町方面と東北本線大宮方面を結ぶ「大宮支線」、武蔵野線西船橋方面と東北本線大宮方面を結ぶ「西浦和支線」、武蔵野線府中本町方面と常磐線取手方面を結ぶ「北小金支線」、武蔵野線府中本町方面と常磐線上野方面を結ぶ「馬橋支線」の計5つの支線がある。また、所属は京葉線になるが、武蔵野線と京葉線東京方面を結ぶ「高谷支線」、武蔵野線と京葉線蘇我方面を結ぶ「二俣支線」がある。

今回この部誌では「大宮支線」「西浦和支線」「北小金支線」「馬橋支線」「高谷支線」「二俣支線」について取り上げる。

② 現状

「大宮支線」と「西浦和支線」



武蔵野線、東北本線、大宮支線、西浦和支線の位置関係は上図のようになっている。上図からわかるように西浦和支線は別所信号場までで、別所信号場からは大宮支線を通して東北本線と接続しているのである。

大宮支線を通過する旅客列車には大宮～八王子・府中本町間で運行されている「むさしの号」と小山・大宮～河口湖間で運行されている「ホリデー快速河口湖3号・4号」がある。

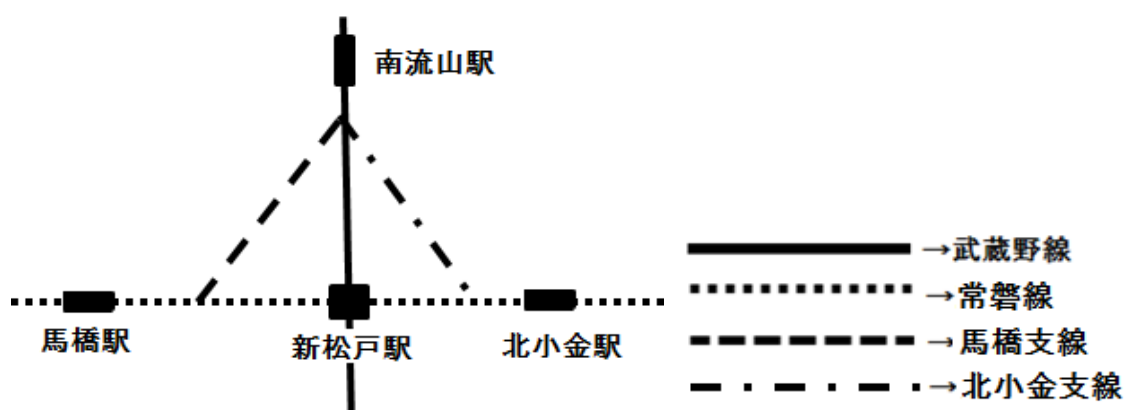
西浦和支線を通過する旅客列車には大宮～西船橋・新習志野・海浜幕張間で運行されている「しもうさ号」がある。また、春に大宮～館山で運行されている「花摘み南房総号」もこの西浦和支線を通過する。

右写真は、大宮から西浦和支線を通過して運転されているしもうさ号の方向幕である。



なお、この電車が海浜幕張駅に到着した後は、折り返し新習志野行きとなる。海浜幕張と新習志野は1駅しか離れていなく、京葉車両センターへ入庫するためである。

「馬橋支線」と「北小金支線」



続いて、武蔵野線、常磐線、馬橋支線、北小金支線である。それぞれの関係は上図のようになっている。また、上図には書かれていないが、配線上は二つの支線を使って常磐線から転線してきた列車は南流山駅にある中線に入るようになっている。その逆の武蔵野線から常磐線へ転線する列車も同様に南流山駅にある中線に入る。

まず、馬橋支線を通る旅客列車は現在設定されていない。そのため、貨物列車のみが使用している。また、馬橋支線の一部区間は単線になっている。

続いて、北小金支線だが、北小金支線を通過する定期列車は現在設定されていない。しかし、臨時列車としてはいわき～鎌倉間で運行されている「ぶらり鎌倉号」や日立～東京間で運行されている「舞浜・東京ベイエリア号」がこの北小金支線を通過している。舞浜・東京ベイエリア号は一旦、前述の南流山駅の中線に入った後スイッチバックをして東京に向かう。

右の写真はイベント開催時などに臨時に運転されている新松戸行である。新松戸に到着した後は前述の南流山駅の中線まで回送される。南流山駅中線で折り返し、京葉車両センターまで運転される。



吉川美南駅開業後は右写真の新松戸行きは吉川美南行きへと変わった。

また、北小金支線を用いた臨時列車も運転されている。

初詣の時期は大宮方面から初詣用の臨時電車が運転されている。

東北本線から武蔵野線へは西浦和支線を使って、武蔵野線から常磐線へは北小金支線を使って転線される。

さらに我孫子から成田線に入って成田まで運転される。



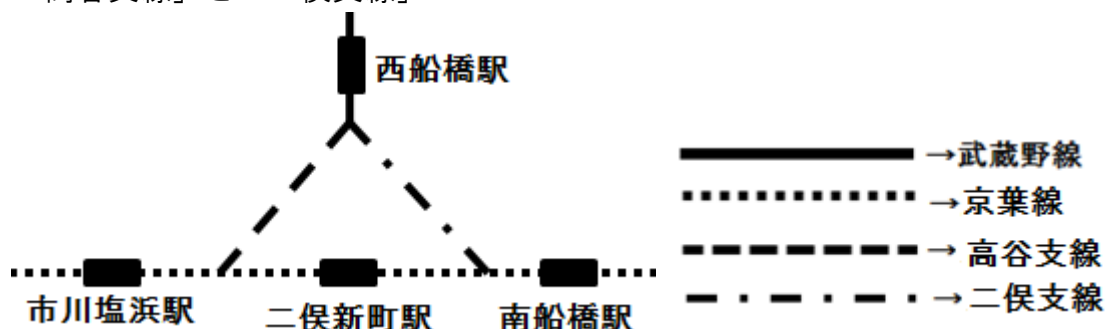
観光の時期には水戸方面から高尾へ臨時電車が運転されている。

主に、JR 東日本水戸支社のパック旅行として運転され、一部は一般客向けに開放されている。

常磐線から武蔵野線へは北小金支線を使って、武蔵野線から中央線へは国立支線を使って転線される。



「高谷支線」と「二俣支線」



最後は武蔵野線、京葉線、高谷支線、二俣支線である。個々の位置関係は上図になっている。武蔵野線は西船橋駅で終点を迎え、そこから先は京葉線になる。東京方面と蘇我方面でそれぞれアプローチが設けられた。武蔵野線から分岐した支線と京葉線がデルタ地帯を作っている。

高谷支線は武蔵野線と京葉線東京方面を直通する列車に乗れば通過することができる。また、二俣支線は武蔵野線と京葉線蘇我方面を直通列車に乗れば通過することができる。

③ 考察・あながき

今回取り上げた武蔵野線の支線は大半が旅客化されている。その中で定期列車が運行されていないのは、「馬橋支線」と「北小金支線」である。双方とも常磐快速線からしか入ることができない配線になっている。日中は常磐緩行線と武蔵野線、双方とも12分間隔である。そのため、新松戸駅での乗り継ぎの時間が合わないと結構な時間待たされてしまう。そのためにも、日中は1時間に1本程度馬橋支線と北小金支線を利用した直通運転を行う列車があってもよいのではないか。

④ 参考文献・サイト

Wikipedia(適宜参照) <http://ja.wikipedia.org/>

JR 東日本 駅の時刻表 <http://www.jreast-timetable.jp/>

Google map <https://maps.google.co.jp/>